

三博協と「郷土」博物館

調布市郷土博物館館長 山岡 博

三多摩公立博物館協議会がその前身として活動していた時期を含めると、発足以来20年が経過したことになり、当初6館であった会員館も現在では21館を数えるまでになりました。この数字は公民館図書館に比べ後発であった博物館が、何とか生涯学習の施設として多摩地域において伸長し、定着してきた証とも言えるのではないのでしょうか。また多摩地域では会員以外の博物館・美術館や類似する施設も増加しその内容も実に様々で、リニューアルオープンを含め、新しく登場した博物館施設は斬新な手法を取り入れ展示を始め様々な活動を展開しています。したがって利用する側から見れば、でかける気分にもなるし、「安・近・短」に博物館等を利用できる環境になったとも言えるでしょう。しかし反面では利用する側のニーズや意識も成熟度を増し、これに応えるためには、個々の館の充実や他館との連携など三博協としての活動も質的向上を目指す時期を迎えているとも言えるのではないのでしょうか。

会員館の大半は、実際に館の名称に使用しない別として、一個の独立した自治体によって設立された「郷土」を冠した博物館で、いわば「郷土学」の拠点としての性格を備えています。しかし「郷土」博物館に対する昨今の風評の中には、多摩地域の博物館に限らず「郷土」博物館は「金太郎飴のようだ」と言うものもあり、その真意はどこへ行っても似た物が並び、代わり映えがしないということだと思います。たとえ一部の意見であってもこの意見は看過できない意見だと思います。

確かに多摩という地域の中で、個々の館が地域の歴史や生活を紹介しようと資料を並べれば、固有の資料と展示方法の工夫などによってそれなりには個性を引き出すことはできるでしょうが、相対的な印象としては似かよったものになり、ましてや隣接する自治体の館同士ではその差異を見出すことは困難かもしれません。元来設立の趣旨や規模なども似かよっていること、同一地域にあることから、施設や設備など付加価値が異なっても

本質的には「金太郎飴」的現象はいたし方のないことなのかもしれません。

一方この「金太郎飴」という批評が飛び出す裏側には利用する側の変化があるからこそという考え方もできるのではないのでしょうか。直接的には利用者が複数の館を見学したからこそその意見でしょうが、それ以前に利用者である市民意識の変化が大きいのではないのでしょうか。かつてはそれぞれに「郷土」あるいは「地元」といった言葉も耳にしましたが、移り住んだ人々が多数を占め、生活のあらゆる面で平均化された昨今では、こうした言葉も時代に取り残された感があります。現在の市民意識は、自治体の枠にとらわれない自らの行動範囲や生活に関わる環境を一にする範囲を「地域」として考えているのではないのでしょうか。また日頃の業務においても利用する側の変化を感じることがしばしばあります。かつては簡単に説明できた資料や事柄も、生活様式や周囲の変化から、より多くの言葉を要するようになったこと等々、何か従来の地縁的市民と異なる博物館と市民意識との隔たりを感じるがあります。

こうしたことから「金太郎飴」という言葉を考えると、単に代わり映えがしないというだけではなく、「郷土」博物館と昨今の市民意識の隔たりの中から生まれてくる率直な印象とも取れるのではないかと思われてなりません。

こうした状況下、個々の館では施設や設備の改善、あるいは新たな事業展開などがなされ、時代に即した対応を行っていることと思いますが、これにも限界があるのではないのでしょうか。当然「金太郎飴」は複数の館を見比べての印象でしょうから、三博協としても何か考える必要があるのではないのでしょうか。

多摩という地域にできた博物館のネットワーク、その繋がりを生かした共同事業を行う中から多摩地域の全体像を把握し、それを共通の基盤に各館の個性を引き出すと言うような展開もできるのではないのでしょうか。

博覧会の時代—南多摩郡物産共進会をめぐって—

八王子市郷土資料館 土井 義夫

明治時代は博覧会の時代であった。大は政府主催の内国勸業博覧会にはじまり、府県主催の各種博覧会・共進会、あるいは府県連合共進会のほかにも、郡レベルで行われる共進会・品評会などのミニ博覧会も各地で開催されていたのである。

南多摩郡では、南多摩郡農会主催の物産共進会が、明治35年（1902）3月1日～15日、明治44年（1911）11月10日～20日の会期で、八王子町において開催されている。

南多摩郡農会は、明治21年（1888）に成立した私立南多摩郡農工会を母体に、明治31年（1898）1月に19町村農会の連合組織として成立した（東京府南多摩郡農会『東京府南多摩郡農会史』大正3年刊）。同会は、郡内農業の発展をはかる一方法として品評会を毎年のように開催し、農事改良につとめた。この品評会は、農産物の立毛あるいは成粒のものについて現地を実施したのに対して、生産品を集めた物産共進会が企画されたものである。すなわち、その目的は「本郡内重要産出物品ヲ蒐集シ公衆ニ縦覧セシメ且其物質工芸ノ精粗優劣ヲ品評シ斯業ノ改良進歩ヲ図ル」にあった。

会場は、いずれも、八王子町元横山中野台である。ここは、明治32年（1899）に開催された、東京府主催の一府九県連合共進会の跡地で、八王子町に払い下げられた本館を借用し、付属施設を増築して会場としたものであった。

第1回の出品点数は、織物492点を筆頭に1542点であったが、第2回には、5552点と拡大した。観覧者は第2回の場合、11日間で78253人と大変な盛況となった（南多摩郡農会『第二回南多摩郡物産共進会報告』明治45年刊）。

第2回の物産共進会では、南多摩郡教育品展覧会も附設開催されている。会場は、八王子町八日町の織物市場を借りた。「教育品ヲ陳列シテ公衆ノ縦覧ニ供シ教育ノ進歩改善ニ資スル」目的で、

- ①小学校児童ノ書キ方・綴リ方・図画・手工・裁縫等ノ成績品
 - ②小学校、実業学校及特殊教育ノ教授管理・訓練・養護等ニ関スル意見及実験ニ関スル書類・諸表簿・器具・器械・標本・模型・絵画・図案等ノ類
 - ③教育ニ関スル参考品
- などが出品された。

出品点数は31338点にのぼり、観覧者の総数は49327人であったという。郡内はもとより、西多摩・北多摩の各地から観覧者が集まり、山梨県上野原小学校の430人を筆頭に神奈川県津久井郡・高座郡の小学校の団体見学も多かった。

このような、共進会と呼ばれるミニ博覧会につ

いては、開催されたことが知られているわりに、その具体的内容の検討が行われることがなかったのではないだろうか。しかし、どの共進会についても、それぞれに必ず事業報告が刊行されており、地域の諸産業の発達を知る上で興味深い研究素材を提供してくれるのである。また、会場となった町の案内書・パンフレット・出品人名目録など、事前に刊行される出版物も多く、当時の地域の諸様相を知る上で、貴重な資料が多いことにも注目すべきであろう（第二回物産共進会では、『南多摩郡の産業と教育』という小冊子が刊行され、記念品として配布されている）。

明治時代に限らず、地域の歴史は、かならずしも、細かな一こま一こまが具体的に明らかにされているわけではない。地域の歴史を明らかにするために、地域に残された資料の調査研究を、さらに進めていくことが、地域博物館の果たすべき役割の一つであるに違いない。



平成5年度の活動報告と平成6年度の活動計画

■調布市郷土博物館

平成5年度の企画展は、市内遺跡から出土した縄文土器を紹介する「縄文土器－それぞれの顔」(3/23～5/23)、実篤記念館移動展「人間萬歳－実篤の生涯－」(6/5～7/4)、高温多湿の夏を過ごしてきた先人の知恵や工夫を紹介する「夏の思い出」(7/20～8/31)、市民寄贈のくらしの道具を中心としたコレクションを紹介する「民具に見る町人のくらし」(11/10～1/16)を実施した。4つの地域福祉センターを巡回する美術展は、「関野準一郎版画展－東海道五十三次」(日本橋～掛川－5・6月、袋井～京都－9・10月)を、4つの公民館を巡回する移動展は、「写真で見る寺社の彫刻Ⅰ－西光寺の仏像」(9、10、11月)を、また移動展「太平洋戦争と庶民の暮らし」(7月)を実施した。そのほか、古文書入門講座、多摩川探訪、歴史散歩、美術散歩、縄文土器作り・染め物・しめ縄作り・足半草履作りの講習会を行った。また、11月から第2土曜日に展示説明会を行っている。

平成6年度は、夏の企画展「化石(仮称)」、秋の開館20周年記念特別展、春と秋の巡回美術展、夏と秋の移動展を予定している。展示説明会のほか前年度並みの教育普及活動を実施する。

■東京都高尾自然科学博物館(平成5年度)

自然観察会(日曜日)

サルの暮らしをのぞく	5/30
身近な気象を調べよう	8/8
溪谷の森	9/14
雑木林を調べよう(土日)	10/16、17
たねの散り方を見よう	11/14
虫たちの冬越し	1/23
けものを探そう	2/26

自然観察会(平日)

スマレを見に行こう	4/13
山のネズミを探そう	7/28、29
埋立地の自然	9/22
川原の自然	10/13

自然講座(日曜日)

スマレの話	4/18
キノコの話と野外観察	6/20
東京にいた巨大象	7/25
都市にすむ野鳥	12/19
奥多摩にすむ魚	3/13

植物調査会(調査会) 9回(4月～12月)

(同定会) 7回(5月～2月)

平成6年度も引き続き実施

■立川市歴史民俗資料館

(平成5年度の事業)

川越道緑地古民家園の開園(平成5年10月17日)

市指定有形文化財「小林家住宅」(平成元年12月1日指定)を中心とした施設で、同住宅は創建当初(幕末期)の姿に復元されています。

ここでは、生活道具や年中行事の展示、体験学習会等も行っていく予定です。

体験学習会等の実施

－歴史民俗資料館－

はたおり教室等：9回、のべ26日

親子手打ちウドン作り：6/12、8/28、11/13

草モチ作り：4/10

柏モチ作り：5/26

麦について－ボウチとウドン作り－：7/7、9

むぎわら細工：7/27

昔の遊び－お手玉、竹トンボほか－：8/24～26

十五夜ダンゴ作り：9/30

十三夜月見ダンゴ作り：10/26

昔の遊び－コマ作り－：12/11

モチつき大会：12/22

マユダマ作り－小正月の食体験－：1/12

－古民家園－

小林家住宅見学会：12/5

親子わら細工作り－正月飾り－：12/25

はたおり体験：1/7、1/8

特別展示(歴史民俗資料館)

さきおり作品展：(平成5年)3/27～5/9

■清瀬市郷土博物館

平成5年度活動報告

歴史展示室テーマ展示「縄文時代の生活を探る－清瀬の原始－」(H.5.11～H.6.10)…旧石器時代～縄文時代の出土遺物、遺跡模型、狩猟採集道具、石器・土器の製造過程等を展示する。

民俗展示室テーマ展示「清瀬の職人さん」(H.6.2～H.7.1)…現在清瀬で活躍するそら師、竹かご、人形、はきもの、押絵羽子板、箔押し職人の技と伝統を紹介する。

ギャラリー特別展「日本を彩る－大正・昭和の風景画－」(9.25～10.11)…日本の代表的な洋画家の日本を題材とした風景画を展示。企画展「清瀬美術家展」(11.13～28)

伝承スタジオ 先人の知恵に学ぶ

衣住編…体験はたおり、機織教室、和裁教室、染物教室、藁草履作り、しめ縄作り、折紙講習会、宿泊体験学習

食編…伝統料理講習会、減塩梅干講習会、味噌作り講習会、親子で楽しむ手打ちうどん

博物館年中行事…茶つき、茶もみ、麦棒打ち、もちつき、まゆ玉飾り、節分のやっかがし、あぼひぼ、収穫祭

自然観察会…野草の観察(1回)、野鳥の観察(1回)、星の観察(4回)、立科自然観察会

■羽村市郷土博物館

平成5年度の活動報告

企画展「写真展 たんぼの詩」「五月人形展」
「ゲタづくりの道具展」「夏のくらし展」
「写真展 昭和10年代の羽村」
「玉川上水 江戸の木樋」「まゆ玉飾り」
「ひな人形展」「'93寄贈品展」

特別展「多摩川の生んだ文豪 中里介山」

はむら自然観察会（6回実施）

歴史講座「中里介山 人と作品」（5回実施）

文学散歩（1泊2日、2回実施）

体験学習会（「まゆ玉飾り」ほか、3回実施）

平成6年度の実施計画

企画展「玉川上水と青梅鉄道」ほか、7回

特別展「はむらの職人とその道具展」

講座「多摩川の自然と文化を訪ねて（仮称）」

歴史講座「地方文書を読む」

文学散歩「介山ゆかりの地を訪ねて」

読書会/体験学習会2回

■府中市郷土の森博物館

○平成5年度活動報告（展示会）

- (1) もえぎ色のうわぐすりー緑釉陶器の美と製法ー（平成4年度から継続～5月5日）



- (2) ハケの自然とくらしー鏗山英次写真展ー（5月23日～6月20日）
(3) 南武蔵の古墳（7月25日～8月31日）
(4) 農具は語る 多摩の近代ー多摩の脱穀具を中心にしてー（9月19日～10月31日）
(5) 郷土玩具 天神人形の世界（2月11日～3月6日）
(6) 合戦伝説ー新田義貞と分倍河原合戦ー（3月20日～5月5日）

(2)(4)はTAMAらいふ21協会協賛で開催したもので、(2)は会期終了後に、同様の展示会趣旨で東京都庁及びTAMAらいふ21会場（2回）の巡回展を行い、(4)は第18回日本民具学会大会府中開催にあわせ実施した。

○平成6年度活動計画

平成6年度の展示会は、5年度からの継続である合戦伝説のほか、次を計画している。

- (1) 水木しげると日本の妖怪（5月29日～7月3日）
(2) 府中の自然展（7月31日～8月31日）
(3) 歌舞伎衣装展（9月25日～10月10日）
(4) 梅展（平成7年2月～3月）
(5) 収蔵品展（平成7年3月～4月）

(1)(3)は府中市政40周年記念事業として開催するもので、(3)は10月8日～10日に開催する「伝統芸能と縁日の森」の一環として実施する。この「伝統芸能」は、博物館本館・プラネタリウム及び復原建物など、郷土の森約14ha全体を使って行うもので、郷土芸能の実演をはじめ、縁日の雰囲気を感じ出すような企画となっている。

なお平成5年度中に、旧三岡家長屋門の移築復原が完了し、これに伴いふるさと体験館における体験学習・演習事業がスタートした。毎週日曜日に、竹細工・わら細工・鍛冶屋実演や折紙教室などの事業を行っている。

■武蔵村山市立歴史民俗資料館

平成5年度実施事業

1. 講座・教室

- (1) 地域の文化財めぐり（全5回、5/29、7/10、9/11、1/8、2/12）

市内の旧集落を単位に文化財をめぐり学習した。

- (2) 体験教室（全5回）

ア 手揉み茶づくり（5/30）

イ 親子縄文土器づくり教室（8/4・25）

ウ 親子で作るサツマダンゴとユデマンジュウ（10/9）

エ 手打ちうどんづくり（11/13）

かつての地場産業や生活の一端を体験した。

- (3) 歴史講座（全2回、11/6・7）

三多摩東京府移管問題について学習した。

- (4) 民俗学講座（全3回、3/20・26・27）

民俗学の初歩的な学習をした。

2. 展示活動

- (1) 収蔵資料展 今昔風景写真展（7/11～9/30）
夏の野草写真展（7/20～8/31）

- (2) 特別展 写真で見る姉妹都市栄村（7/25～9/12）

3. 刊行物 文化財資料集11「指田日記」

■青梅市郷土博物館

特別展『心のたからもの展 ー私の思い出ー』

平成5年7月13日～平成5年10月10日

『たからもの』とは、「貴重な品物」、「宝とするもの」という意味として使われることが多いが、「大切にしているもの」、「かけがえのないもの」という意味としても使われています。

この特別展では、この「大切にしているもの」「かけがえのないもの」という意味の『たからもの』を市民の方々から広報などで募集し、賞状、手紙、着物、色紙など約80点を展示しました。

企画展『郷土の火消道具』

平成5年11月2日～平成6年1月30日

町火消は、江戸時代中期に初めて組織されましたが、幕府の直轄地であったこの地方にも江戸時代後期には町火消のような組織があったようです。

この企画展では、青梅消防署などの協力を得て館蔵資料を中心に消防組や警防団などで使われていた消火器具や消防装束など約70点を展示しました。



■五日市町立五日市町郷土館

長期歴史講座

「五日市人の物語」5月～1月第1・3土曜日

五日市町の原始より現代まで、遺物、遺跡、文化財、古文書、日記等を根拠に、それぞれの時代を生きた五日市人のプロフィールを探る講座を開催し、郷土の理解を深めた。

秋川の石教室（8/12）

古生代、新生代の化石採集と地質、岩石の観察を行い、夏休み中の郷土学習を援助した。

五日市町の歴史探検（3/27）

－五日市町のむかしを調べよう－

小中学生を対象にした、歴史の道「五日市街道とその沿道」を歩き、史蹟や路傍の石仏の姿から、子どもたちに往時の人々のくらしを探らせた。

「大悲願寺日記」（上）を刊行

江戸後期（天明～文化）当地方を代表する真言宗の古刹、大悲願寺住職の日記をもとに、「大悲願寺日記」（上）を刊行した。

■東京農工大学工学部附属繊維博物館

平成5年1月～12月活動報告

1. 催しもの講習会等

1/13 催しもの「まゆ玉祭」

2/8,9 繊維博物館公開講座
「先端繊維高分子技術」2/26 サークル式典
「第12回サークル終了式」

4/14 サークル講習会「にわか雨」

(和紙絵研究会)

4/23 “ 「円形クッション」(手編の会)

5/23 特別講演会「日本の竹細工」
(工藤員功・武美大)“ 「日本の稲作わら」
(下田博之・農工大農)6/12 子供科学教室「色の科学ーたまねぎ」
(重原淳孝)6/16 サークル講習会「シルクベルト」
(組ひも研究会)

7/7 催しもの「たなばた祭」

7/10 子供科学教室「まゆの不思議」
(重松正矩)7/31 “ 「電池チェッカーを作ろう」
(鹿野快男)9/11 “ 「プラスチックペンダントを
作ろう」 (佐藤寿弥)9/14 サークル講習会
「ひも結びのアクセサリー」
(ひも結び研究会)9/22 “ 「レースのポップリ袋」
(レース研究会)9/28 “ 「かんじき織り」
(織物研究会)10/8 “ 「藍絞テーブルセンタ」
(藍染研究会)10/9 子供科学教室「光電話をつくろう」
(梅田倫弘)10/14 サークル講習会「フェルト絵画づくり」
(手袖研究会)10/20 “ 「自然材つるかご」
(紬瑠かご会)12/2 “ 「型染テーブルセンタ」
(型絵染の会)12/10 “ 「わら工芸正月飾り」
(わら工芸会)12/11 “ 「コンピュータに教えよう」
(小谷善行)

2. 展示会（特別展、ミニ展等）

12/1～1/31 ミニ展「ミシン&ポスター展」

2/10～3/31 “ 「マッチレット展」

2/17～2/23 サークル展「第12回作品展」

3/10～9/30 ミニ展「組ひも展」

4/20～4/30 “ 「切手趣味週間展」

5/12～5/23 “ 「稲作の畜力農具展」

5/19～5/23 特別展「かごとわらの工芸展」

5/25～6/30 ミニ展「江戸小紋染デザイン展」

7/1～9/10 “ 「ファンシーヤーン展」

7/4～9/30 “ 「手すき和紙展」

9/11～10/31 “ 「大正期の包装紙展」

10/25～2/10 “ 「羊毛フェルトと不織布」

11/6～1/21 “ 「燐葉木版画展」

11/10～11/14 特別展「コンピュータの魅力」

11/20～2/10 ミニ展「わら細工工芸展」

■奥多摩郷土資料館

収蔵品展（2階）

5年4月～6年3月 小河内の山村生活用具（国指定）を中心に展示。

6年1月13日～31日 小正月のお飾り〔門（かど）の棒、粟穂稗穂、たわら、かたな、まゆ玉〕（本来は13日から17日の飾り）

5年4月～6年3月 白丸西之平遺跡・海沢下野原遺跡の出土品展示
小河内の郷土芸能（1階）

5年4月～6年3月 水没した小河内地域に伝承されている国指定の鹿島踊、都指定の車人形、獅子舞、神楽を展示。

ささら獅子舞展示（1階中央展示室）

5年4月～5年8月 都指定の原の獅子舞展示

5年9月～6年3月 奥多摩町に数多く保存伝承されている「ささら獅子舞」の中から町指定の白丸の獅子舞を展示。

■井の頭自然文化園

平成5年6月1日に、彫刻園が開園しました。

＜平成5年度活動報告＞

（*は6年度の実施が決定しているもの）

- * 5/17 アユの放流と観察会
- 6/1 彫刻園開園式典
- 7/1～8/31 昆虫展
- * 7/1～7/30 動物愛護の標語募集
- * 7/21～7/22 サマースクール
- 7/25 夏休み 楽しい昆虫教室
- 9/9～9/30 秋の鳴く虫展
- 9/19 講演会「鳴く虫のおはなし」
- 9/11 写生会「ウサギを描こう」
- * 9/15 長寿動物のお祝い
- 9/21～9/26 動物愛護なかよしカード
- 10/9 写生会「ハクチョウを描こう」
- 11/3 やきいも大会
- 11/13 写生会「ヤクシカを描こう」
- * 11月～12月 おちばのプール
- * 1/5～2/27 千支展
- * 1/15 新春寿獅子舞
- 3月 オシドリ放鳥

■檜原村郷土資料館

近年、山村の山仕事も機械化され変わってきました。木材（丸太）を、山から搬出する施設などが消えていきます。その一つとして、「纜道」を再現展示をしています。村在住の山仕事に長く従事して精通した人により、縮尺十分の一で制作されています。林業も、いま低迷していることと、従事者もすくなくなお高齢化をしています。山仕事の、いろいろなことが不明になってきています。

次に予定しているものとして、「しゅら」の施設を計画しています。この施設も、山合いの狭い谷間などに設置して木材の搬出をする施設です。これも技術を要して、なかなか難しい作業の施設

です。このほかにも、沢などをせきとめていちどきに水を流し木材を搬出する「てっぽう」という施設などもあります。この技術も大変難しいものです。これらの、技術は長い山仕事の体験から編み出された貴重なものです。

■瑞穂町郷土資料館

○所蔵資料展 平成5年4月1日～10月末日

町郷土資料館が昭和52年11月開館されてから16年、この間に町内および町外から寄せられた資料は数千点に及んでいる。この数多い民具をはじめ農具・生活用具等のうち、町民に親しみやすく、町の歴史を伝える資料も含めて展示した。このうち、殿ヶ谷の野崎家より寄贈された「内景之図」1幅は、江戸時代医業を営んだ野崎祐信の遺品である。この人体解剖図は近郷にない資料で、八王子在の縁者からの要望もあり展示した。

○むかしの生活用具展 平成5年11月3日より

毎年恒例となっている秋の総合文化祭参加特別展として、平成5年度は昔使用された各種の生活用具を展示公開した。珍品として話題にのぼったのは戦後間もなく売り出された「手回し洗濯機」や「蚊帳」「木製懐中電灯」「ラッパ付きラジオ」などである。3月末まで展示の予定である。

○平成6年度の活動計画については、「瑞穂町の石造文化財展」を企画している。

■福生市郷土資料室

平成5年度

○企画展「時代を翔んだ多摩の女性－森田美知子のきもの展－」6・2・2～3・30

市内で明治、大正期に製糸業を営んでいた森田家より寄贈されたきものを展示。このきものは製糸業経営二代目退蔵の夫人美知子が明治、大正期に着用していたものが中心となっている。美知子は10代後半に東京に遊学し、文明開化期の思想、特に明治20年代ころから高まった女性解放の風潮に共鳴し「芸娼妓全廃論」なども書いています。きものを展示することで明治、大正期を駆け抜けた女性の一生にスポットをあててみました。

平成6年度の予定

○企画展「(仮題) 20世紀多摩の文化運動」

大正期の草の根文化運動や昭和20年代の自由大学運動などの関係資料を展示の予定。

○特別展「(仮題) 福生の自然石舟型浮彫像墓標拓本展」

中世の板碑以後、近世中期に角型墓標が出現する以前の期間に造立された墓標約300点の拓本展。

■東村山市立郷土館

展示室では、東村山の歴史を市内の民俗資料を中心に展示を構成しています。

活動としては、北山公園民家園を利用しての年中行事の実施、そして小学校の夏休みに開講していることも歴史教室があります。この歴史教室も

今年度で21回目を迎えました。昨年までは文化財の見学を中心に行ってきましたが、今年度より「親しみやすい歴史、文化財」をテーマに「火おこし」や「わらじ作り」などの体験学習も行いました。「火おこし」では、みんな真剣に火がおきるまで休憩もとらずに頑張っていました。「わらじづくり」では、わらじを2足も作る子供たちも大勢いました。

また、市内の文化財の見学も従来の見学とともに「文化財をさがしてみよう！」と名付けて東村山市を構成する旧5村（回田・野口・久米川・大岱・南秋津の村）の文化財を地図を片手に探しました。今回からの初の試み、いろいろ問題点もっていますが、これらを踏まえて平成6年度は、体験学習を中心に計画しています。

■町田市立博物館

○平成5年度

「館蔵ボヘミアン・グラス」 (4/20～6/20)

高級ガラス器、ボヘミアン・グラスの18世紀から20世紀の作品117種、245点を展示。

「ベトナム陶磁」 (7/6～8/15)

ベトナム陶磁の紀元前から近世に至る基準的作品、約200点を展示。

「ヨーロッパのガラス—15世紀～19世紀—」

(8/24～10/3)

いくつもの技法を駆使して作られた、美しいガラス器を展示。

「農耕図と農耕具」 (10/10～11/14)

近世期の農耕図及び、農具等を展示。

「忠生遺跡」 (11/23～1/30)

忠生土地区画整理地内から発掘された縄文土器を中心に展示。

「町田の文化財」 (2/8～3/6)

市内所在の各種文化財を展示。

「漫画・近代・人・事件～田川水泡コレクション」

(3/15～4/10)

田川水泡氏収集の近世・近代戯画・風俗画コレクションを展示。

○平成6年度(予定)

「町田市立博物館蔵ガラス名品展」

(4/19～5/29)

「描かれた幕末明治の東京・横浜～マスプロ電工錦絵名品展」

(6/14～7/10)

「ベトナム・タイの陶磁—中村三四郎コレクション—」

(7/19～8/28)

「大津絵展」 (9/13～10/9)

「日本現代ガラス展」 (10/18～11/27)

浜松市美術館蔵「中国の金銅仏と石仏」

(12/13～1/22)

「青面金剛と庚申信仰」 (1/31～3/12)

「市内遺跡展」 (3/28～5/7)

■日野市ふるさと博物館

第4回企画展「中世の日野～幻の真慈悲寺と高幡不動～」 (7/1～8/31)

幻の真慈悲寺と高幡不動の二つの寺院をテーマにすえて、百草発見の経筒や高幡不動胎内文書、市内各遺跡からの出土遺物などを展示し、中世の日野について考えた。期間中は2回の講演会の他に「平家琵琶を聞く会」「鎧を着てみよう」「中将棋をさしてみよう」などの関連行事も行った。

今年度は子供たちの週休2日制に併せて、4月の博物館大公開をかわきりに「手打ちうどん作り」「土の中の生物たち」「ふるさと＝平山を知る会」「化石のレプリカ作り」など多くの体験学習会を行った。また秋には、多摩川や世界の川をテーマにした特別講演会を全7回にわたって行った。

6年度は、多摩川で川漁師をしていた鈴木由太郎氏寄贈の漁具をもとに、魚の生態と伝統的な漁法の関連に力点を置いた第5回企画展「清流と生業」を行う予定である。かつて多摩川と共にあった日野の人々の暮らしぶりを見ていくことで、清流を取り戻す意識も育んで行きたいと思っている。

■八王子市郷土資料館

・特別展 明治時代の八王子 (9/24～11/7)

多摩東京移管百周年記念特別展として、また、TAMAらいふ21協会協賛事業として企画。明治時代の八王子の政治・経済・文化・世相という、それぞれのテーマにそって、館収蔵資料を中心に展示した。特別展記念講演 江戸東京文化財団 小木新造氏 (10/17)

<教育普及事業>

・親子歴史教室 (7/27～29)

ビデオで事前学習のあと、「絹の道」を実地見学。

・歴史講座 (9/11、12、18、19)

特別展にあわせ、「明治時代の八王子」について、それぞれのテーマにそった5名の新鋭の講師を招き、連続して学ぶ。

・八王子車人形講座 (11/20、21)

車人形の歴史を知り、仕組みを実演によって理解する。

・体験学習「しめ縄づくり」 (12/19)

平成6年度の主な事業は次のとおり。

・特別展 千人同心の群像 (10～11月)

今まであまり知られていなかった千人同心の地誌編纂事業、洋学者松本斗機蔵、幕末の軍制改革を3本の柱にし、新たに見つかった資料を中心に展示。

・歴史講座「千人同心の群像」 (10、11月)

これも、特別展と同じテーマ構成で実施予定。

・企画展 (3月)

収蔵資料を中心に展示。

他に、常設展、小規模な普及事業は通年のとおり。

小金井市文化財センターが開館

小金井市教育委員会
社会教育部社会教育課文化財係

小金井市文化財センターが平成5年6月に開館しました。玉川上水に近い浴恩館公園内(約13,800㎡)にあり、武蔵野の面影を残す櫟・楓・ツツジなどの森に囲まれた閑静な場所です。昭和6年から12年まで全国の青年団講習所が開かれ、下村湖人の『次郎物語 第五部』の舞台にもなりました。改修された木造平屋建(延床面積約700㎡)のセンター本館には、展示室・学習室・図書資料室・資料整理室などがあり、展示室には考古資料・歴史資料・民俗資料が常設展示されています。企画展示として3月下旬から5月の花期に、「小金井サクラ」に関する収藏品展を毎年開催する予定です。また園内に講師宿舍として建てられた「空林荘」や江戸末期の裨蔵(穀櫃)が移築復元されています。施設的には十分ではありませんが、将来の本格的博物館建設を目指した活動を進めてまいりたいと考えています。

休館日 毎週月曜(休日は翌日)・年末年始
所在地 小金井市緑町三丁目2番37号
電話 0423-83-1198

<交通案内>



- JR中央線武蔵小金井駅下車徒歩25分、東小金井駅下車徒歩20分
- バス (JR中央線武蔵小金井駅北口より)
関東バス三鷹駅行 小金井公園前下車徒歩5分
京王バス関野橋経由東小金井駅行 緑センター下車徒歩6分

(仮) 郷土文化施設を6年度に開館へ

(仮) 国立市郷土文化施設開設準備室

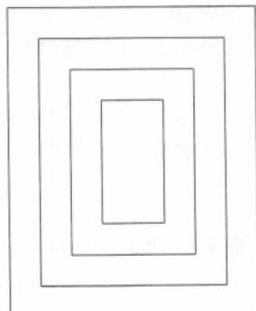
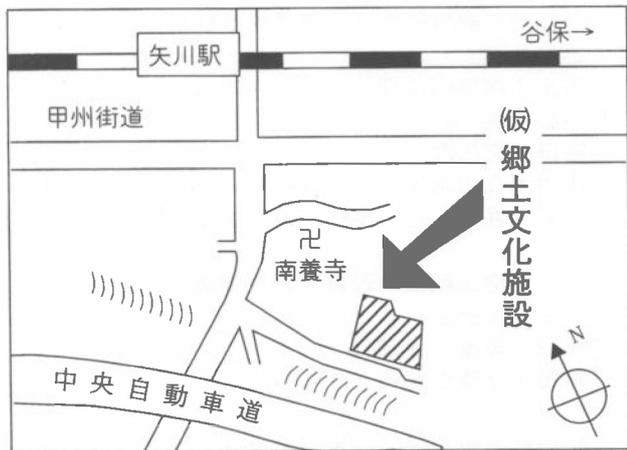
平成5年度は(仮)郷土文化施設の建設並びにアクセス道路拡幅整備を行い、建物は今年3月に完成予定です。また、常設展示工事に着手し、ハケをテーマに歴史、民俗、自然を展開していく予定です。3月議会に設置条例を上程し、施設の名称や運営内容を決めます。そして、平成6年度は展示工事を完了し、今秋オープンを目指しています。常設展示室、企画展示室、収蔵庫、講堂等、延べ床面積は約2,181㎡です。

開館後は、古代から現代までの歴史、民俗資料や自然の展示、研究、保存などを行ったり、市民の体験学習や伝統芸能の発表など、様々な利用ができるよう考えています。

この施設は、武蔵野の自然な雰囲気を残すように建物の85%を地下に設けています。地上部分は庭園にして、武蔵野に自生する草木を植え「自然と文化の散策路」の休憩場所になります。また、エントランスホールの床に、ビデオ画面や展示物を埋め込むなど様々な工夫をしています。

これからも皆様方の博物館を見学させていただいたり、いろいろお聞きしたりするかと思いますが、よろしくお願い致します。

建設場所 国立市谷保6231番地 南養寺南側



発行： 東京都三多摩公立博物館協議会
☎ 192 八王子市上野町33
八王子市郷土資料館
TEL0426-22-8939
編集委員： 調 布 市 郷 土 博 物 館
青 梅 市 郷 土 博 物 館
奥 多 摩 郷 土 資 料 館
瑞 穂 町 郷 土 資 料 館

